

【徳島県】

現在の景気：個人消費に持ち直しの動きがみられるものの、一服感続く。

3か月程度の見通し：緩やかに回復していくとみられている。

個人消費：持ち直し。2月の大型小売店販売は、気温が低めに推移した影響から春物衣料品が不調となったものの、冬物衣料品、防寒用品に加え、鍋物食材を中心とした食料品が堅調に推移し、全体では前年比増加。大型ショッピングモール（ゆめタウン徳島）の開店、一部大型店のリニューアル効果もみられた。3月の乗用車販売台（軽含む）は、エコカー補助金制度の復活や新車種投入の効果から、全体では前年比74.5%増加。

住宅建築：減少。2月の住宅着工戸数は前年比6.9%減少。

設備投資：堅調な動き。大手製造業を中心に堅調。

公共工事：足許増加したものの、減少傾向。2月の公共工事請負額は、独立行政法人等が前年比22.5%減少したものの、国が86.5%増加、防災関連工事などから県が33.3%増加、市町村が146.1%増加し、全体では前年比80.2%増加。

輸出：減少。2月の小松島税関支署管内通関輸出額（前年スポットのタンカー輸出を除く）は前年比0.8%減少。

生産活動：やや弱含み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比17.4%低下し109.4。前月比上昇したのは、金属製品、繊維、鉱業など15業種のうち6業種。原指数は前年比11.1%低下。

観光：足許増加したものの、弱含み。2月の徳島市内の主要ホテル・旅館業は、インターネット予約を中心に個人客が好調に推移したほか、団体客も増加するなど、全体では前年比増加。本州四国連絡道路の交通量は、明石海峡大橋が前年比6.4%減少、大鳴門橋が4.3%減少、瀬戸大橋が4.1%減少。

雇用情勢：堅調な動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.93倍。原数値は前年比0.15ポイント上昇し1.03倍。12月の常用雇用労働者指数は前年比0.5%上昇、現金給与総額指数は1.5%上昇、所定時間外労働時間指数（製造業）は前年同水準。

（トピックス）

3月18日、徳島のアニメ文化発信の拠点化を狙い、アニメ映画館「ユーフォーテーブル・シネマ」（徳島市）がオープン。運営は徳島市とアニメ制作会社ユーフォーテーブル（東京）。中心市街地での常設映画館復活は6年ぶり。総事業費約1億2,000万円のうち、県が3,000万円、市が1,500万円を補助。中心市街地では2009年から定期的にアニメの祭典「マチ アソビ」も開催されるなど、アニメを核とした新たな観光資源となることが期待される。